



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/21 (月)	▲ 200	▲ 47,100	▲ 47,300	国庫短期証券 発行・償還 (3M・1Y)	CP等買入 ▲ 300		米：祝日 (プレジデントデー)
2/22 (火)	▲ 1,000	+ 1,000	トシ			社債買入 + 800	米：消費者信頼感指数 (2月)
2/23 (水)	天皇誕生日						1-0圖：CPI(1月) 英：英中銀総裁議会証言
2/24 (木)	▲ 1,000	+ 4,000	+ 3,000				米：GDP (4Q改定値)
2/25 (金)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000	国庫短期証券 発行・償還 (6M)			日：東京CPI (2月) 景気一致指数 (2月) 景気先行指数 (2月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は国庫短期証券の発行等により週初、前営業日比△2兆6,300億円の525兆9,900億円から始まった。その後15日は年金定時払いにより536兆6,400億円、16日には国庫短期証券買入オペやCP等買入オペなどにより538兆8,800億円、17日には国債等買入オペにより540兆100億円まで増加するなど週を通して増加基調にあった。週末の18日は大きな動きもなく540兆1,100億円を越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初前営業日比+0.003%の△0.019%から始まり、1月積み期最終日の15日は着地に合わせた調達ニーズの高まりから△0.010%まで上昇した。その後2月積み期は16日の△0.024%から始まり、17日は△0.022%に上昇、週末3日積みの17日はビッドサイドの調達ニーズが強くなり△0.018%まで上昇し越えた。ターム物は1W～2W物を中心に、主に△0.040%～△0.005%の水準で出会いが見られた。

来週の主な予定は、国内で25日に景気先行CI指数 (12月) の公表などがあり、海外では23日に英中銀総裁の議会証言やユーロ圏CPI (1月) の公表、米GDP改定値 (4Q) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.085 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

<レポ>

足許GC取引は週を通して、△0.085%近辺で取引された。週初に、指し値オペが通告されたものの、レポ市場への目立った影響は見られなかった。SC取引は2年424~433回債、5年137~150回債、10年333~365回債、20年164~179回債、30年69~73回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.090 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,500億円で、週間償還額 (約8,700億円) を上回った。発行市場は、鉄鋼業や陸運業等で大型の発行が見られた。発行残高は先週末の26兆6,145億円から、17日時点で26兆5,406億円に減少した。発行レートは、希少銘柄や期越え銘柄を中心にマイナスレートでの応札が見られ、△0.09%台～0.000%での出会いとなった。10日に、CP等買入オペが予定通り5,000億円でオフアされた。結果は案分レート△0.030%・平均落札レート△0.014%となり前週比 (案分レート△0.013%・平均落札レート△0.011%) で低下する結果となった。コロナオペ担保需要の強さ等から、買入オペでの売却ニーズが低下したものと推測される。

来週の週間償還額は、約1兆8,900億円となっている。発行市場は、5・10日発行や月末日の大量償還 (約1兆4,000億) に対するロール発行が見込まれることから、活況を予想する。発行レートは、先週同様、発行頻度や発行期間によってマイナスレート～0%近辺での決着となるであろう。22日に、CP等買入オペが5,000億円程度オフアされる予定。

<TDB>

2月17日の1Y1059回債の入札は、最高落札利回り△0.0491% (前回債△0.0879%)、平均落札利回り△0.0551% (前回債△0.0909%) となり、2月18日の3M1060回債の入札は、最高落札利回り△0.0763% (前回債△0.0819%)、平均落札利回り△0.0819% (前回債△0.0908%) となった。来週は2月24日に6M、2月25日に3Mの入札がある。